鹽池見學記

中谷英雄

序

自分は昨十四年戎衣を着て山西省にあつたが、其の際、機會に惠まれて河東鹽の産地である解州の鹽池及び同廟を見學する事が出來た。今當時のノートと記憶を辿りつゝ見學記を書いて見る事にしたが、當時求めた拓本やら、其の他の材料が到着して居ないので、今回は單なる見學記に止め、詳細に關してはいづれ他日稿を改めたいと思ふ。

一

運城の南城門を出て約三町で鹽池廟に達する。廟は小高い丘から漸次下つて其の丘の下に東は安邑から西は解縣の方向に擴がる大鹽田があり、鹽田を越して湖其の南には中條山脈が聳える絶勝の地にある。今順路を進んで行こう。

鹽池には周圍に土塀を廻らして各所に門が設けられて居るが、城門より二町の所に中禁門がある。二層の樓で破壞のあとが著しく、碑が倒れて塵に埋もれて居る。

門より少し下つて丘に登りはじめると一坊があり、北面には阜財解慍、南面には條巒聳翠の文字が讀みとれる。約半町で廟の裏側に達するが、裏門より入るのは順路である。入口に掲示(布告)が見える。

一、車馬ノ引入レヲ禁ス
一、廟内ヲ汚損不潔ニスヘカラス

布　告

一、兎進車馬
一、廟内貴地不可汚穢臟

運城露營司令部

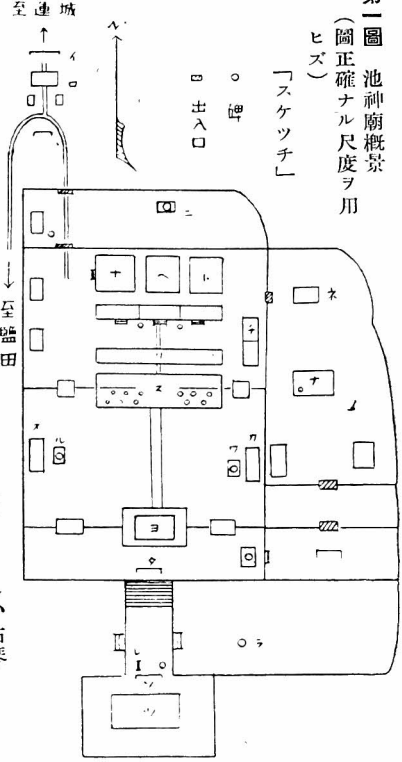
とあつて保護を加へて吳れて居るのは如何にも嬉しい。兎に角運城を訪れる皇族名士は必ず此の廟に訪れる由である。

門を入ると左に埋像塚及び碑がある。碑は民國のもので新しいが、これは清末に當廟内に一像も止めず廢棄した像を集めて埋めた塚とか、誰が廢棄したのか今思ひ出せない。

更に門を入り左に進むと巨大な三殿が接して並んで居る。重層青甍丹楹屋上に水煙の如き物々しき飾りのある三殿は威壓的である。向つて左は風洞神殿、中は鹽港神殿、右は條山神殿で三者共に内部に一像も止めぬ爲に外觀の美々しさに比べて實にガランとした殺風景なものである。

中央なる鹽池神殿には入口に靈牖恪恭(道光十七年)宏恩永錫(道光十九年)德澤覃敷(嘉慶十九年)靈貺休徵(雍正乙卯)の四額を掲げ、内部には勅封昭惠裕阜鹽池之神位の三木王が並び(天啓丁卯夏五月吉旦)其の前に祭器五を並べ、條山神殿には條山之神位と祭器三、風洞神殿には風洞之神位と祭器三を並べて居る丈である。入口には三殿共に鐘と鼎を持つて居

第一圖　池神廟概景
（圖正確ナル尺度ヲ用ヒズ）
「スケッチ」



殿前の向拜は三つに仕切られて居るが丹塗りの柱、畫龍、其の色彩の鮮かさと美しさには今迄市中の黝んだ色を見て居た眼には如何にも目覺ましく暫くの間見とれて居た。聞くところによると最近某宮殿下の御來臨があつた際塗り換へた由である。

鹽池神殿の前の向拜の左右の壁には各二つ刻石をはめこんだ外に、天井から床迄白塗りの板に文字を記して居るが、右のは

皦乎滉乎範雪模氷瀉星沃白東西百二十里涌澤鹵而貢國珍駭造化神奇弘錫川靄昭貺

左には

廣矣大矣鍛圭琢璧學圭剖珠上下億萬千年裕邊儲而佐邦賦美方興美利直齊海若之功

前面の柱の紅紙の聯には

鹽是國家豐歲伴三半省民食產生時全賴神功浩蕩（右）

池居安解區年曆十閏月期間成獲後共酬聖德汪洋（左）

とある。石階を下ると左右に煉瓦で保護された元の大碑がある。高さは約三米、其の台の龜趺の大なる事と其の顏のグロテスクな事には一驚した。これは元の至治元年の神廟碑で左のは碑背にも刻して居る。

二

碑より五六歩進むと戲台がある。支那のいづれの廟前にも見られるもので、二階で演戲を行ふやうになつて居る。これは解州府志では奏行樓と名づけてある。壁に山水や鍾鬼の繪を描いて居るが、其の壁に河東民衆反英大會順序を記した紙が貼りつけてあり、講演の順と最後に、

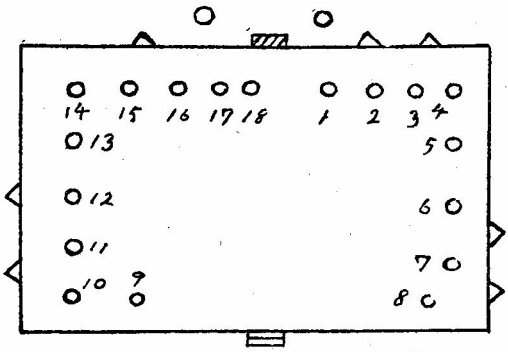
一、打倒英國侵略主義　一、大家一致反英　一、中華民國萬歲　一、大日本帝國萬歲

との口號（モットー）が記されてある。いつのものか分らぬが六月十六日より十九日迄祭禮だつたが其の間に行はれたものだとも思へる。

戲台の下をくゞり抜けると一字があり、

其處には多數の碑が並んで居る。唐元明清民國のもの等あるが今其の主なものを拾つて見よう。（配置は第二圖參照）

一、侍御史肅公特祭鹽池諸神廟碑（萬曆三十五年丁未）



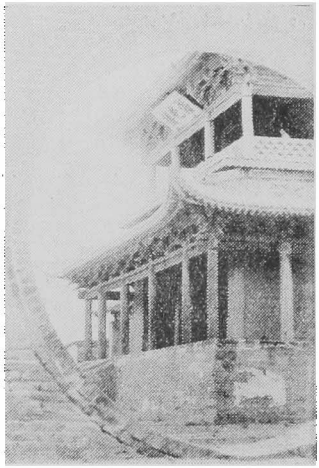
碑 ○

壁にはめた刻石 △

第二圖 碑配置圖

二、勅修池神廟碑記（萬曆二十年）
三、重修池神廟碑（萬曆四十五年）
四、重修鹽池廟碑（天順七年）
五、大元加號之碑（大德三年八月）
六、新脩河東狹西都轉運使司鹽池周垣之碑（正德十三年）
七、御製祭文（正德六年）
八、詩碑
九、河東鹽運使崔文徵先生德政碑記（民國十七年）
十、重修池神廟碑記（民國七年）
十一、重修池神廟碑記（光緒十七年）
十二、重修鹽池神廟之碑（大元至元二十七年）
十三、重修鹽池神廟碑記（道光十七年）
十四、大元加號之碑（大德三年八月）
十五、鹽池神御香記（至正七年八月）
十六、大唐河東鹽池神祠記（貞元十三年）
十七、重建解州鹽池神祠記（弘治甲子）
十八、創修鹽池石工記（萬曆二十五年）

以上の外に壁に詩の刻石がはめこんである。碑の大部分は二米位の大型でよく保存され、古いもの程頭部の龍の彫刻や龜趺は美事である。碑面を寫す時間もないので殘念に思つて居た所、偶然拓本採取人に出逢つたので、うまく賴み込んで海光樓の碑との中から十九面丈採取せしめた。此の拓本は後に新民學校の手を通じて自分の許に屆けられた。



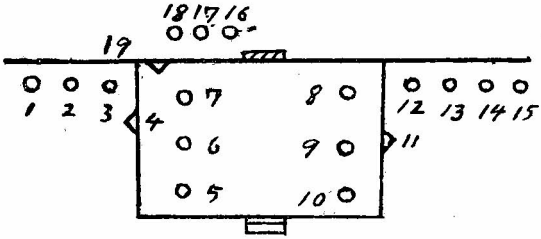
第三圖 海光樓

三

階段を下つて海光樓に至る右方の殿宇には杜君之神位を安置し、其の前の碑樓には正德十三年の新修河東鹽池禁門垣隍記の碑があり、左の殿には土地之神位を祭り、其の前には道光十七年の碑を持つ碑樓がある。

海光樓は（第三圖 朱塗りの二層樓であつて、樓上に登り得る。樓上より南方を

臨めば、眼下に鹽田が見え、所々に白き鹽の山、幽かに動く人影、宛かも瀬戸内の鹽田を思はせるものがある。鹽田の向ふは湖でリヤス式の屈曲多く、湖の向ふの村落からは、すぐ中條山脈に續いて居る。微風に吹かれつゝ見渡して居ると胸中詩趣の湧くを覺えた。然し遂に文字に表はし得ずに終つた。



第四圖　海光樓下碑配置圖

海光樓下にも碑多いが、詩碑の多いのは故ありであらう。（碑の配置は第四圖）

一、重修池神廟碑記（康熙五十七年）
二、三、見湖陶謨の詩（嘉靖己亥）
四、重鐫解池形勝之圖
五、告文
六、鹽池虎異記（嘉靖十一年）
七、河東鹽池賦（崇禎戊寅）
八、民侍御史曾公大裕鹽儲記（萬曆三十三年）
九、海光樓賦（康熙庚辰）
十、登石門北望鹽池作鹽池歌
十一、河東鹽池之圖
十二、延裕六年七月碑（破壞し不分明）
十三、侍御按河東邀飲海光樓贈別（嘉靖癸卯）
十四、甘棠遺愛記（康熙二十三年）
十五、重修池神廟記（康熙五十六年）
十六、大修池陽祠宇記
十七、重修河東鹽池諸神廟記（康熙四年）
十八、重修池神廟記（崇禎五年）
十九、舜帝彈琴臺

此等の碑の中には二米に達するものもあるが、大部分は小碑である。樓の柱の紅紙の聯には六十階坡臨對面、萬千畦水繞當門とあるのも實に此の絶景を言ひ得て妙である。（第五圖）

四

海光樓の前の坊には池寶天成とある。六十餘の階段を下つて行くと舜彈琴處とある坊に達する。（第六圖）其の前に石琴と由緒を記した碑がある。石琴は五〇糎位の長さで、嘗て舜帝が彈じたと云ふ。

第五圖　海光樓附近より太陽司雨神殿鹽田、中條山脈を臨む

叩いて見るとたゞコツ〳〵と音がする丈だつた。

坊の次の一殿は此の廟の一番先端のもので司雨神位、其の背面に池に面して太陽神位が祭られて居る。此の司雨太陽神殿の位置は僻州府志の圖とは位置を異にして居る。府志には此の兩神位の位置が鹽池神殿の左方になつて居るが、今其の位置には城隍廟と關帝廟があつて、城隍廟には東、中、西城隍之神位の三つが祭られ、關帝廟には關平、關帝、關倉の三神位が祭られて居る。

これで廟の殆ど全部を見學し終つたのだが何か見殘しはないかと隅々迄見て歩いたが別段發見する所がなかつたが樂書を二つ見付けた。

自從當兵七八年
西北轉了半拉夫
住在運城池袖廟
手中無洛分文錢

孫中山先生來革命
馮總司令要實心
五十萬大兵去世敢
留下打元主運城

下手な字でかきなぐつて居るので寫し間違ひがあるかも知れないが、兎に角統制なき支那兵の悲哀を知つて同じ戎衣を着て居る身同情を禁じ得なかつた。

五

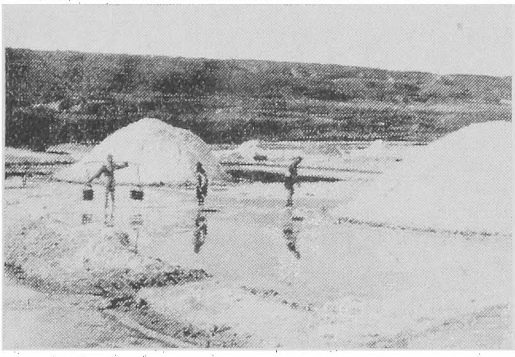
下から仰ぐと廟全體が青空に浮いて宛も龍宮城の如くである。(第七圖)此の廟のどこを歩いて見ても、時々出逢ふ遊覽客以外一人の番人も居らないらしい。淋しい感じがする。眉白の老僧でも居たなら如何に似合しく、又語り合へるのにと殘念である。

此の廟は唐の時代に作られ、其の後何回となく重修されて來たが、此等の木材は陝西省の寶雞山より來て居たが、清朝で最後に修築した際は木材を運ぶ多大の費用を慮つて運城市中の古材を求めしめたと云ふ。

碑は總數では相當あるが唐碑は一面、元碑の五面を除いては清朝のものが殆ど大部分を占めて居る。不思議な事には宋碑が一面も發見されない事であつた。

六

丘陵下に鹽田がある(第八圖)田の樣に區切つて水を滿して居るが、嘗めて見ると實に鹽辛い。隅の方では結晶して居る。此の鹽池は隨分と廣いが全部が鹽水ではなく、一部に濃い鹽水が湧くので其處に井戸を堀り田に汲入れ、天日によつて結晶せしめるのである。天日による故大部分は夏時製造され、此の期間には河南方面より勞働者が多數集つて來て製鹽に從事するのである。多少雜物を混じた鹽は堆積され、上を泥で塗りこめその上にアンペラの被ひをかけて貯藏し、賣買するのである。



第八圖　鹽田風景

日支事變勃發により此の製鹽事業も中止され、其後日本軍の管理下に入つたが木材、水と共に支那人の珍重する鹽が手に入らぬのに苦しんで鹽盜人が續出した由なので、鹽務管理局では鹽警を置き、取締りを行ひ一方製鹽も行はれ初めた。

運城の町に山西鹽務管理局河東分局があるが、此の廟の西には鹽警の詰所があつて、若い支那の青年が銃を持つて監視をして居る。佈告があつた。

第七號

山西鹽務管理局河東分局佈告

爲佈告事茲値春融正當鹽池工作始之除池下各商戸自應肅清閑雜人等以便工作進行再客歲事變各商戸內寄居逃難人民甚多茲限於三月三十壹日以前一律移出至非關鹽務人等嚴禁出入鹽池案關場產作業影響至爲重大仰衛商民人等一體週知其各凜遵勿違切切此佈

中華民國二十八年三月　日

局長

副局長

實貼中頭舖王世芳

日本文の方は寫さず家の中に入ると鹽警の分隊長李忠斌君が居たので暫く話をした。鹽警の服裝は服色國防色、折襟で脚絆をつける。襟章には金の緣の中に鹽警の文字肩章は我が國の巡査の如く横につけ、鹽の文字と青エナメル塗りの星。ボタンに鹽の文字が入つて居る。右腕に腕章をつけ、これにはマークと山西鹽務管理局鹽警第一大隊第四中隊第壹壹肆號左の腕に銀金銀の三本の山型をつけ、胸に姓名を記した小布片を附けて居る。帽子は同じく國防色で、軍帽と同じ型である。こゝの苦力は軍管理第四十工場產鹽公會鹽場工人許丙章といふ風な腕章をつけて居る。

これで廟及び鹽田の見學を終つたが、寺についての考證的な事及び鹽田に關する詳細はいづれ稿を改めての事と思つて居る。（完了）（昭和十五年三月五日記）

京漢線ところどころ（續）

○昨日彰德に着いて夕方までに町を一巡り見てまはりました。仲々賑やかな町で城壁の中すきまのない迄に家のつまつてゐるのには感心しました。今朝は東南營街にある韓琦の祠堂をたづねました。相當に立派な廟で韓王廟といつて居ます。奥の正堂には韓琦の木像が祀つてあつて軒には光緒帝や西太后の書いた額がかゝつてゐます前庭の西側に碑屋ともいふべき建物があつて、かの有名な畫錦堂記（文は歐陽脩、書は蔡襄）や宣和四年の年號のある榮事堂記などを始め大德二年の韓魏王新廟碑その他幾つもの碑が立つてゐます。壁間には韓琦の撰並に書とある韓愷墓誌銘などが嵌め込んでありました。廟の鄰が韓琦の故宅で光緒の末年から中學校となつてゐたのが最近では軍の病院に使はれてゐます。賴んで見せて貰ひましたが中央の堂には明の彰德府知事陳九仞の筆になる大きな畫錦堂の額がかゝつてをり前庭の兩側には狎鷗亭と觀魚軒とがあります。……此等の建物は乾隆四十何年かに重修されたものゝ樣です。彰德を發つて夕方新鄕に着きました。皇軍入城二週年記念日のやうに思はれます。（二月十七日新鄕にて日比野）